

感染症かわら版

第3号

管内で麻疹(はしか)患者が発生しました。

■ 麻疹とは

麻疹は麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、「はしか」と呼ばれることもあります。

感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は極めて強く、同じ空間にいただけで感染することもあります。免疫を持っていない人が感染すると、90%以上の人が発症します。

すべての年齢層で発生がみられるため、成人も注意が必要です。

■ 症状は

典型的な麻疹の症状は、(1)発熱、(2)全身性発疹、(3)咳、鼻水、結膜炎などのかぜ症状です。

感染後、約10~12日間の潜伏期間があり、38℃程度の発熱が2~4日間続き、かぜ症状が出ます。その後、39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。発熱は通常4~7日続きます。発疹の出現する前後1~2日には、ほほの内側の粘膜に、コプリック斑と呼ばれる小さな白色の斑点がみられることがあります。

発疹は、赤い斑状球疹で、まず耳の前や下に出現し、顔や首に広がり、24~48時間かけて体幹や四肢に広がります。発疹は通常5~6日は出現し、出現した順序に消えていきます。

全身の免疫力が低下するため、肺炎や中耳炎などを合併することがあり、脳炎を発症することもあります。合併症がおこる確率が高いのは、5歳未満の乳幼児と20歳以上の成人です。合併症がなければ、主な症状は7~10日で回復しますが、免疫力の回復には1か月程度かかります。それまでは他の感染症にかからないよう十分な注意が必要です。

■ 感染経路は

空気感染(飛沫核感染)が主な感染経路です。麻疹患者が咳やくしゃみをする時、周囲に麻疹ウイルスを含んだしぶきが飛び散り、しぶきが乾燥してウイルスがしばらく空気中を漂います。このウイルスを含んだ空気を吸った人たちに感染する恐れがあります。その他に飛沫感染、接触感染もあります。

感染力は極めて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12~14人の人が感染するとされています(インフルエンザでは1~2人)。不顕性感染(感染はしても発症しないこと)はほとんどありません。

ウイルスは、浮遊中や物質の表面で最大2時間の活性があり感染力を持っているとされています。また、感染者が他の人へ感染させる期間は、発疹出現の3~5日前から発疹消失後4日くらいまで(または解熱後3日くらいまで)とされています。

麻疹の発生状況-西太平洋地域

出典 厚生労働省検疫所

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2017/02061018.htm>

国名	2015		2016		死亡者数
	確定患者数	100万人あたりの発生率	確定患者数	100万人あたりの発生率	
オーストラリア	74	3.3	95	3.9	0
ブルネイ	4	9.0	1	2.3	0
カンボジア	0	0.0	56	3.5	0
中国	41,217	29.5	24,089	17.4	19
香港	12	1.6	9	1.2	0
マカオ	0	0.0	0	0.0	0
日本	32	0.3	152	1.2	0
ラオス	56	8.0	0	0.0	0
マレーシア	1,302	43.3	1,493	48.6	1
モンゴル	1,617	566.4	3,347	1,113.3	41
ニュージーランド	13	2.9	104	22.8	0
バブアニューギニア	53	6.9	0	0.0	0
フィリピン	688	6.8	74	0.7	0
韓国	7	0.1	18	0.4	0
シンガポール	39	7.7	140	24.6	2
ベトナム	291	3.1	36	0.4	0
太平洋諸国	20	6.1	5	1.5	0
総計	45,425	24.2	29,619	15.9	63

日本の2016年の麻疹患者数は152人でした。

■ 予防は

有効な予防方法は、麻しんのワクチンを接種し、免疫をあらかじめ獲得しておくことです。

予防接種法の対象疾患として市町村が予防接種を実施しています。定期接種では麻しん・風しんの混合ワクチン（MR ワクチン）として接種します。定期接種の時期は、以下の2回です。

- 第1期 生後12か月以上24か月未満の者
 - 第2期 5歳以上7歳未満の者であって、小学校入学前の1年間
- ※ 詳細はお住いの市町村にご確認ください。



■ 合併症は

麻しんにはさまざまな合併症がみられますが、合併症の半数は肺炎です。また、麻しん患者の約1000人に1人は、脳炎を合併することがあります。この二つは麻しんによる二大死因となっています。

他の合併症としては、中耳炎、クループ症候群（喉頭炎および喉頭気管支炎が原因となり呼吸困難になったりします）、心筋炎などがあります。

ごく稀（麻しん患者の10万人に1人）に、麻しんにかかってから7～10年後に、知的障害、運動障害が徐々に進行し、発症から平均6～9か月で死に至る亜急性硬化性全脳炎（SSPE）を発症することがあります。

■ 治療

特別な治療法はなく、症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

◎ 県（保健所）からのお願い

麻しんは、感染力が非常に強いため、麻しん患者への接触歴があり、感染が疑われる場合は、人混みの中に行くことを避けるとともに、公共交通機関の利用はできるだけ控えるようお願いいたします。

また、麻しん発症が疑われる場合は、あらかじめ医療機関に連絡を入れてから受診するようお願いいたします。

■ その他

- 今回の発生事例の内容については、宮城県のホームページに掲載されています。

<http://www.pref.miyagi.jp/release/ho20170318-1.html/>

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/situkan/masin.html>

- 国立感染症研究所ホームページに動画（約15分）があります。

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles/221-infectious-diseases/disease-based/ma/measles/570-measlesvideo.html/>

大崎保健所管内の感染症情報をお知りになりたい場合は、



北部保健福祉事務所（大崎保健所）

検索

